



関中央ロータリークラブ

2017-2018 WEEKLY REPORT

例会日 毎週木曜日 18時30分

例会場 関観光ホテル（関市池尻91-2）

事務局 関市西本郷通5-2-53 TEL(0575)24-7332 FAX(0575)23-5278

会長 波多野 好文 **副会長** 佐藤 忍 **幹事** 長谷川 修 **クラブ会報委員長** 大藪 太

2017~2018年度国際ロータリー

イアン H.S. ライズリー会長



2017~2018年度関中央ロータリークラブ会長テーマ

「親睦からのロータリー」

本日のプログラム 第1916回例会 2017年10月12日（木）

卓話 関市役所 危機管理課長 波多野 一人様

テーマ 「関市の防災について」 / 担当 米山記念奨学委員会

前例会の記録

第1915回 2017年10月5日（木）

卓話 関市福祉部子ども家庭課長 島田美佳様

テーマ 「一人親家庭子ども支援」

/担当 社会奉仕委員会

*国歌「君が代」斉唱

*ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱

*お客様の紹介

関市福祉部 子ども家庭課 課長 島田美佳様

*会長あいさつ 波多野好文会長

本日の卓話ですが、来年度の当クラブが初めて補助金をもらって行う予定の「子ども食堂」の話も出て来ると思いますので、みなさんよく聞いて頂いて判断をよろしく願います。

さて先日、当クラブの川上会員がプライベートな旅行で台湾へ行くと聞き、台北南隆ロータリークラブへ親書を持って行ってもらいました。私の作った、たわいのない文章を川上さんが立派に校正して、素晴らしい内容にしてください、川上さんどうも有り



難うございました。内容は会長、林淑華様あてで、5月の22周年の行事の招待のお礼と、クラブの近況報告、それに、景文高校と関商工の相互訪問は、来年5月に当クラブが受け入れの予定で、3月頃に打合せて数名の会員が訪台するというものです。この交流事業も7年目を迎え、末永く続いていけるようお願いもしました。

先日、彼岸花の話はしましたが、それに続いて、キンモクセイの花も咲き始めました。大変においもよく、咲かないと、どこにあるかわからない、控えめな、季節を感じる、大好きな花です。このキンモクセイ、モクセイ科・モクセイ属で、原産地は中国南部、江戸時代に日本へ入ってきたようです。本来は雌雄異株で、中国では実がつくのですが、日本へは雄株しか入ってこなかったのが、実が付きません。花言葉は「謙虚」「謙遜」で強い香りが印象的な一面とは裏腹に、咲かせる花は小さくつつましい様子からつけられました。大きい樹木で10m程までに育ち、日本では観賞用として、公園や庭先でよく栽培されていますが、原産国の中国では、食用の庭木と

して育てられています。「桂花」「丹花」と呼び、花びらを3年間白ワインに漬けた「桂花陳酒」(けいかちんしゅ)や「桂花茶」と呼ばれる、花茶が有名でお菓子・漢方薬など幅広く使われています。日本では、花びらを砂糖漬けにした、ジャム等が販売されています。又、日本では昔から悪臭を消し去るほどの強い香りから、トイレの近くに植えられました。またそれに似せた芳香剤も販売されており、若い人にはトイレの芳香剤の香りという、人も少なくありません。同じモクセイ科の花は20種位あり、銀モクセイ・ヒイラギが有名ですが、この銀モクセイ、キンモクセイより先にあって、キンモクセイの元となった、品種ですが、花は白い花を咲かせ、キンモクセイより少し遅れて咲きますが、近所にある銀モクセイは5年に1回くらいしか咲きません。また咲くと香りはキンモクセイよりも良いように思われます。

*卓話 関市福祉部

子ども家庭課課長 島田美佳様

テーマ「一人親家庭子ども支援」

今日は、関中央RC 社会奉仕委員会様から貴重な機会を頂き、ありがとうございます。日頃は市行政に何かとご支援、ご協力を賜り、お礼申し上げます。

子ども食堂は全国で広がりを見せ、各地で様々な取り組みが行われています。皆さんもニュースなどで耳にする機会が増えていると思います。

今日は岐阜県健康福祉部子ども・女性局が作成したパワーポイントを活用し、子供の貧困問題をお話した上で、子ども家庭課が今年度より本当に始まったばかりの事業としてスタートした「ひとり親家庭の子ども」を対象にした学習支援と子ども食堂の取り組みについてご紹介させていただきます。

子どもの貧困率は13.9%。貧困率とは、所得が国民の「平均値」の半分に満たない人の割合です。平成24年度は122万円以下の貧困家庭の割合が13.9%ということです。

つまり7人に1人が貧困家庭ということになります。(OECD・EU加盟22国を含む35国)

次に要保護・準要保護児童生徒の推移です。要保



護・準要保護児童生徒とは、生活保護、市町村民税非課税世帯や、ひとり親世帯などに支給される児童扶養手当を受給者の児童生徒などが該当します。要保護・準要保護生徒には学用品費、修学旅行費、学校給食費などが援助されます。グラフが右肩上がりとなり、年々増加傾向にあります。関市では2014年度市内の小中学生の8.9%にあたる693人が対象者となります。ただし693人すべてが貧困にあてはまるというわけではありません。

さて、先程子どもの貧困率は13.9%ですとお話ししましたが、ひとり親世帯を対象を絞ると、なんと50.8%と2人に1人は貧困という状態です。

ひとり親世帯数は岐阜県内で増加傾向にあり、特に父子家庭はH20とH25の5年間で1.5倍増しています。関市では平成20年に619世帯でしたが、平成28年度には752世帯と20%増加しています。父子家庭も31から51世帯と増加しています。では世帯と収入と学習の関連をみてみましょう。

先程の要保護、準要保護児童には学校教育費、給食費は援助されますが、学校外活動には援助がありません。限られた収入の中で余力のない世帯では学習費に回すことができず、世帯の収入と子どもの学力には明らかな相関関係が見受けられます。

家庭が自己負担する教育支出(つまり学習費)の内訳をみてみますと、公立小・中学校の学習費の6~7割が、学習塾や習い事用に支出されています。さらに経済事情はそのあとの進路や、進学率に差が生じることになります。全世帯の子どもの現役大学進学率が73.2%です。うち大学へは51.8%と約半数が進学しています。ひとり親世帯の子どもの進学率は41.6%、大学へは23.9%と4分1が進学と大きな差が生じています。学歴はさらに、そのあとの就職へと続いていきます。

貧困は、学習のみではなく、食事や医療全てに不利な状況を生んでいます。例えば虫歯の治癒率も貧困家庭は低い結果が出ています。ファーストフードを食べることも要因の一つに挙げられています。貧困の連鎖として。

親の収入が少ない→十分な教育が受けられない→進学・就職で不利となる→収入の高い職に就けない→

子どもが生まれても、親として収入が少ない・・・
このように連鎖が続きます。

貧困の3要素といい、貧困家庭の人はお金と同時に知識の欠如に直面していることも多く、高校生になっても九九ができない。教科書を理解するための漢字も読めないなどの状況を生むことがある。つまりもっと早い段階、小学校在学中に適切なサポートが行われないとその学力を伸ばしていくために必要な基本的な知識を習得できないまま成長せざるを得ないということです。さらにひとり親家庭では、親と子どもと一緒に過ごすことのできる時間が短い。母子世帯の母の年間就労収入が100万円以下の人が29%。100～200万円が35%です。母親の就業率は85%ですが、正職員は約4割。非正規雇用が5割という現実があります。賃金単価が低いゆえに、働けど生活は豊かにならない。労働時間は長い、子どもとの時間は短いという悪循環が生じています。

貧困家庭

- ①欲しくても買ってもらえない。できない・・・がまん、満たされない。
- ②希望を口にしない
- ③どうせ無理、あきらめ・・・前向きになれない
- ④夢を持ちづらい

貧困の問題は、個人の問題ではなく、社会全体の問題です。こんな考え方はできないでしょうか。

例えば、生保受給 生活保護-3,360万円

これが大学 正社員 生涯賃金2億6千万円。そうすると生涯納税額は3,010万円。プラスマイナスなんと6,370万円の差になります。

教育への投資は「よりよい次世代」への投資です。納税できる人に成長することを目指すことは、今後行政がいつも念頭において仕事すべき課題であると感じています。

国も平成26年に「子どもの貧困対策の推進に関する大綱」として第1条としています。即効性として経済的支援「児童扶養手当」の見直し、教育の支援「幼児教育の無償化」保護者の就労支援や生活支援を行っています。しかし、お金の支援だけでは、それぞれの困り感を解決することはできません。

ここからは関市の取り組みについてお話をさせて

いただきます。そこで地域の人たちの力を借りながら、学習機会の不足する子どもたちに学習支援を行う活動や温かい雰囲気の中で食事をとる支援を行うことが求められています。

皆さんは「まちづくり市民会議」をご存知でしょうか？関市のまちづくり施策について、課題を見つけ、その解決方法を考え、実施し、市に提言をするものです。今年度も9月に募集が行われ、10月から来年の8月の発表まで10か月にわたり活動をされることとなります。平成28年度第4期が昨年8月に発表を行った団体が、生活困窮家庭の学力向上を課題とし、夏休み宿題お助け隊として、要保護、準要保護世帯の小中学生60人を対象に、4日間学習や食事を提供する活動を実践しました。

この活動を受け、子ども家庭課では、まずひとり親世帯を対象として、2つの事業を開始しました。

「子ども食堂」の運営事業を実施する団体に初年度のみ初期経費と運営経費について補助金を支払うもので、今年度は2団体が7月から月に1度の「子ども食堂」事業をスタートしました。

具体的には、特定非営利活動法人ヘルシーライフ関が「せきまちなか子ども食堂」を関善光寺境内の安桜会館で開いています。学校給食の栄養士を長年されていた代表の下、子どもが将来きちんとした食生活を送れるよう「食教育」に力をいれています。子ども家庭支援センターとも、わかりやすく言いますと稲口の桜学館、ほほえみ福寿の運営する社会福祉法人「桜友会」が「子ども食堂とも」を開いています。学習支援や相談事業にも力を入れています。2団体合わせて24名の児童、生徒が参加しています。

そしてもう一つが「学習支援事業」で、学習支援のある学習場所と自己肯定感合わせて高められるよう安心して過ごせる居場所を提供する事業です。先ほどの「まちづくり市民会議」で活動を行う支援隊に事業を委託し、8月より毎週1回、20名の児童、生徒が参加しています。学習支援については教員OBをはじめ多くのボランティアの皆さんのご協力により運営されています。

いずれにしても始まったばかりの事業です。さらに「ひとり親に」限定し、一部の場所で始まった事

業です。このような取り組みが広がるきっかけになればいいなと思っています。

むげがわでも子ども食堂がスタートするような話も聞こえてきています。貧困の問題は社会全体の問題、わが事ととらえていただき、関中央RCさんの活動の一つに繋げていっていただければ幸いです。

* 9月度 IGMの報告

レポーター 伊佐地司会員

先日の9月28日18:30より味の孫六さんにて開催をしました。出席者は長谷川さん、広瀬さん、田中さん、川上さん、喜久生さん、山本さん、西田さん、伊佐地の8名です。

まず初めにロータリー情報委員の広瀬さんからロータリークラブとライオンズクラブについて色々と教えていただきました。両クラブとも発祥はシカゴだが、ロータリークラブ結成の12年後である1917年にライオンズクラブが結成されたことや、日本のロータリークラブの創設者ははっきりしているが、ライオンズクラブははっきりしないこと、現在では会員数はライオンズクラブのほうが多いこと、高名なロータリアンとして松下幸之助さんや森繁久彌さん、ケンタッキーフライドチキンのカーネルサンダース（カーネルおじさん立像にはロータリークラブのバッジがある）、マーガレット・サッチャー元英国首相などが会員であったことを教えていただき、改めてロータリークラブの歴史の重みと奥の深さを感じました。また「関中央ロータリークラブ数え歌」を教えていただき、一から十まである非常に良くできた歌詞に感心をしました。

その他には森林整備などクラブの活動をもっとPRし、関中央ロータリークラブの知名度をあげる努力をすべきであるとの意見がありましたし、国際交流として交換留学生の話題も上がり、以前のように活発に受け入れと送り出しをした方が良いという意見がありました。ちなみに広瀬さんは今でも昔受け入れた留学生との交流があり、当時高校生の女の子が今は50歳を超え、息子さんと一緒に来日され、泊まっていかれたそうです。

そして今日の卓話にも関係がありますが、貧困家



庭についての話題もあり、関市においても子供の12人に1人が厳しい環境であるということで、これを何とか支援していく方策を検討していかなければとの意見が上がり、皆さんも同意をされていました。

今回初めて参加をさせていただきましたが、報告以外にも話題は多岐にわたり、健康問題から良薬に至るまで、皆さんの話題の豊富さに感心しながら、あっという間に閉会となりました。いろんな話題で盛り上がり、非常に有意義な会議でした。

*出席委員会

会員数31名、本日の出席22名です。

*ニコボックス委員会

・会長・副会長・幹事

関市福祉部こども家庭課課長 島田様例会にお越し頂きありがとうございます。卓話よろしくお願ひします。伊佐地会員9月度IGM報告宜しくお願ひします。

・小澤重忠君

関市役所福祉部子ども家庭課長 島田美佳様のご来場を歓迎して。

22名のご投函ありがとうございました。

*幹事報告

10月のロータリーレートは1ドル112円です。例会終了後、理事・役員会を行います。関係者の方はご出席をお願い致します。

*メイクアップ報告

9/28 9月 IGM 長谷川修君、広瀬恒行君、田中静夫君、伊佐地司君、川上勉君、喜久生明男君、山本義樹君、西田健一君

<次例会の案内>

第1917回 2017年10月19日(木)

「C. A 地区大会報告」 担当：会長・幹事